

【特別活動研究主題】

自治意識をもち、主体的に生き方を考える生徒の育成

◎ 稲垣 道子，鈴木 駿，佐々木 倫生

1 研究主題設定の理由

【生徒の実態，本校の研究の成果・課題】

- ・R-PDCA サイクルを意識した指導計画により，ボトムアップ型で課題を考え，目的をもって活動できた。
- ・教科横断的に身に付けた話し合い等のスキルについて，生徒は無自覚的に取り組んでいることが多い。
- ・小中連携を含めたカリマネを一層充実させると共に，各学年で身に付けるべき資質・能力を明確化する。

【社会の要請，求められる力】

- ・様々な構成の集団生活で資質・能力を育み，社会に出た後の集団生活や人間関係形成に生かす。
- ・自己が所属する集団に対する自治的能力を高め，主権者として積極的に社会参画する力を育む。
- ・キャリア教育の役割として「基礎的・汎用的能力」を育むとともに，異校種のつながりを明確化する。

2 特別活動で育成を目指す資質・能力

思考力等	協調性等	主体性等
所属する様々な集団や自己の生活，人間関係の中に課題を見だし，課題解決のために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりする力。	多様な他者や多様な構成の集団の中で，課題解決に向かい協働する意義を理解し，合意形成や意思決定を行おうとする態度。	自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし，集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，人間としての生き方についての考えを深め，自己実現を図ろうとする態度。

【各視点で育まれる力や，特性の整理】

○社会参画

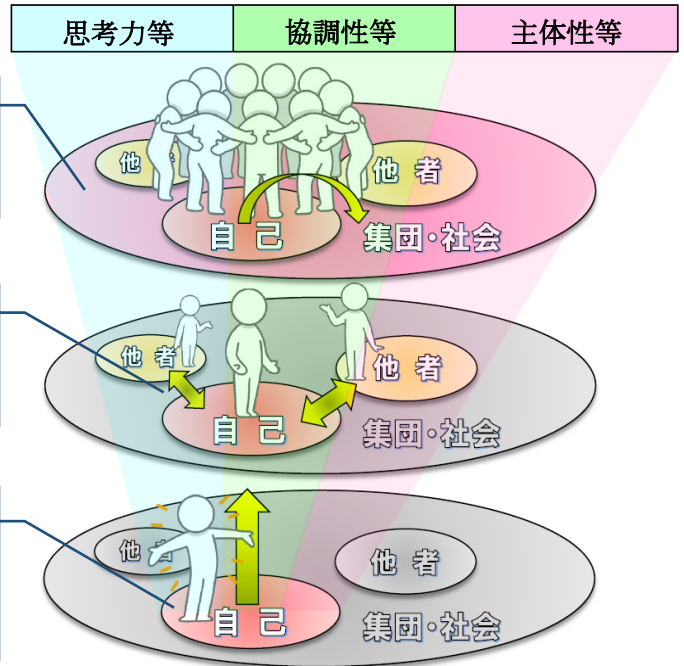
- ・よりよい学級・学校生活づくりなど，集団や社会に参画する力及び諸問題を解決しようとする力。
- ・集団の中において，個人が集団へ寄与する中で育まれるものと考えられる。

○人間関係形成

- ・集団の中で，よりよい人間関係を自主的，実践的に形成する力。
- ・集団の中において，個人対個人という関係性の中で育まれるものと考えられる。

○自己実現

- ・集団の中で，自己の生活の課題を発見しよりよく改善する力や自己の理解を深め，自己のよさや可能性を活かす力。自己の在り方生き方を考え設計する力。
- ・集団の中において，個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる問題を考察する中で育まれるものと考えられる。



3 研究内容

内容知 (ハード・スキルの要素) 【何を知っているか，何ができるか】	方法知 (ソフト・スキルの要素) 【知っていること，できることをどう使うか】	目的知 (メタ・スキルの要素) 【どのように集団・社会と関わり，よりよい生活を送る】
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「合意形成」，「意思決定」を含む学習過程，「R-PDCA サイクル」を意識した単元の構想 ➢ 「シンキング・ツール」を用いた話し合い活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 伝えること，相手意識を大切にした「プレゼンテーション」を行う場の設定と，指導 ➢ ポスターセッション ・新聞 ➢ ICT 機器，iPad (ロイロノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 対外的な情報発信活動，取り組みの場の設定 ➢ 「キャリア・パスポート」を用いた学ぶ意欲の喚起と，自己の成長・変容の自覚化

上記3つの「知」を意図的，効果的に位置付けた
カリキュラム・マネジメント及び教科横断的指導，小中連携の充実